

愛宕臨床栄養研究会（ACNC）第56回学術研究会

日 時：平成18年3月23日 午後6-8時

会 場：東京慈恵会医科大学 西新橋校 南講堂

司 会：山本 裕康（腎臓・高血圧内科）

特別講演：尿酸代謝とアルコール

兵庫医科大学内科学講座内分泌代謝科

山本 徹也

高尿酸血症は遺伝要因と環境要因により決定されるが戦後の生活習慣の変化にともなって、環境要因が重要となってきた。その中でもとりわけ飲酒は高尿酸血症をきたす重要な要因とされている。アルコール飲料に含まれているエタノールはアデニンヌクレオチドの分解を促進し、また血中

乳酸を増加させることにより、血中尿酸を増加させると言われている。またビールは多くのプリンを含んでおり、このプリンも血清尿酸値の増加の一要因と言われている。その他、遺伝要因、飲酒習慣、運動、脱水は飲酒による血清尿酸値の増加を増強するとされている。そのため飲酒量、アルコール飲料の種類とともにこれらの要因にも、高尿酸血症の治療上、注意を払う必要がある。

（兵庫県医師会医学雑誌2005；48：43-7より許可を得て転載）